

都道府県別賞一等

人生百年時代を生きるための備え

長野県 佐久長聖中学校 一学年

村上 彰

「人生百年時代」、この言葉は、二十一世紀になって言われるようになったそうです。僕の曾祖母はまさしく人生百年で、今年で九十九歳になり、先日白寿のお祝いをしました。曾祖母が生まれたのは大正十四年（一九二五年）で、家庭用固定電話も普及していない時代でした。でも百年たった今、曾祖母はスマホを使いこなして電話をかけてきます。しかし、変わったのは、通信機器だけではなくありません。この百年の間に、時代は大正、昭和、平成、令和と移り変わり、様々な歴史的な出来事がありました。一九四五年まで続いた太平洋戦争。一九四六年、日本国憲法の公布。一九六四年の東京オリンピック・パラリンピック、一九七〇年の大阪万博。阪神・淡路大震災（一九九五年）、東日本大震災（二〇一一年）。曾祖母は、それらの出来事が起こる中、女学校を出て就職し、結婚。子供を二人育てて、孫は四人、今はひ孫が六人います。両親や義両親、兄弟、夫を看取ってきました。

僕が曾祖母のように百年生きるとすると、あと八十八年もあります。その間、世の中が何も変化しないはずがありません。きっと曾祖母が生き抜いてきた時代のように、世の中は激しく変化することでしょう。また、曾祖母が経験したように、楽しいときもあれば、悲しいときもあることでしょう。もしかしたら空飛ぶ車で移動したり、タイムマシンで時空を越えて旅したりできるようになるかもしれません。大災害が起こったり、交通事故にあったり、大切な人が亡くなったりするかもしれません。悪いことばかりを考えたくはないですが、万が一の事態が起きたらその後の生活に困るかもしれません。リスクに備えることは、長く生きるうえで必要だと思います。もしものときの備えとして保険に入っていれば、将来助けになってくれるでしょう。僕が保険が必要だと思う理由。それは、預貯金だけでは、必要なときにお金が十分に貯まっていけない可能性があることです。百年生きるとしたら、お金の価値や給料が激しく変わっていくでしょう。そんな中、もしものときに備えて必要なお金を貯めることは容易ではないと思います。一方、保険は必要なときに必要な分の保険金を受け取ることができます。もしものことが起こるのが保険加入から数年後だったとしても保険金を受け取れるので、いつでも備えることができます。

僕は、曾祖母のように長生きして、楽しいことをたくさん体験したいです。そのために、保険をうまく活用していきたいです。どんな未来が待ち受けているのか楽しみです。